

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：34405
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2013～2015
 課題番号：25370194
 研究課題名(和文)映像記録・日本民衆史学 大阪泉南地域におけるアスベスト被害と石綿村百年史総集篇

 研究課題名(英文) Documentary film about Asbestos damage in Sennan area, Osaka

 研究代表者
 原 一男 (HARA, Kazuo)

 大阪芸術大学・芸術学部・教授

 研究者番号：40388393

 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：大阪泉南地域のアスベスト被害の実態と「泉南アスベスト国家賠償訴訟」の経過を2007年から2015年にわたって取材撮影し、ドキュメンタリー映画として制作。撮影テープ：500余時間。撮影場所：泉南市、阪南市、岸和田市、堺市、大阪市、東京都、韓国等。撮影対象：原告、遺族47名、支援者15名、弁護士16名、医師・学者3名、計80余名。2016年2月『ニッポン国泉南アスベスト村 劇場版 命てなんぼなん?』(134分)を完成。2月9日完成試写会を大阪芸術大学映画館で開催。2月13、27日東京・シネマヴェーラ渋谷「原一男監督特集」で特別上映。秋に大阪で自主上映後、東京で劇場公開。国際映画祭に出品予定あり。

研究成果の概要(英文)：We have recorded the actual situation of Serious Health Hazard of Asbestos in Sennan Area. On May 26, 2006, 8 asbestos victims brought the Japanese Government into court suing for compensatory damages for mental suffering. On July 2008, we started shooting Sennan Asbestos trial to the video. The shooting period : 2015 from 2008. The shooting Location : Sennan city, Hannan city, Kishiwada city, Sakai city, Osaka city, Tokyo. Shooting targets : asbestos victims, bereaved families, supporters and defense counsel, a total of 80 or more people, such as. More than 500 hours were taken to the video tapes.
 In February 2016, we completed the documentary "NIPPON SENNAN ASBESTOS VILLAGE - Movie version What life will be much on earth?(134minutes)". On February 9 we held a complete preview in Osaka University of Arts Movie theater. February 13, 27 days, in Tokyo and Cinemavera Shibuya, it was screened. The movie is scheduled to be screened at the Osaka. In Tokyo it after.

研究分野：映画制作

キーワード：映画論 芸術表現 地域環境・災害 環境・公害

1. 研究開始当初の背景

(1) 大阪泉南地域は明治末から石綿紡績を地場産業としてきた。戦前戦中は軍需産業の要として、戦後は復興の下支えとして国の需要に応え続けた。最盛期は100力以上の工場が泉南地域に集中したが、そのほとんどは零細企業であった。国は戦前から内務省保険院の調査によって泉南地域の甚大な石綿肺発生の実態を把握していたにもかかわらず、その情報を隠蔽し、規制どころか石綿紡績業を奨励してきた。

(2) 2005年「クボタショック」の衝撃が泉南を震撼させた。かつて一族が石綿工場を経営していたが戦後廃業した経歴を持つ柚岡一禎を中心に「泉南アスベスト被害と市民の会」が発足。弁護士や医者とともに、初めて石綿の健康被害の自発的な調査が開始された。その結果はあまりにも悲惨な恐るべき実情であった。そしてついに2006年泉南地域の被害者・遺族・住人8人が石綿による健康被害の責任を国に求めて提訴に立ち上がった。

(3) 2007年春から研究活動を開始、現地への取材、裁判の傍聴、原告団・弁護士・支援者との交流を通して信頼関係を深め、翌2008年7月より自主制作で映像記録の撮影をスタートさせる。

(4) 2009年大阪芸術大学芸術研究所の芸術研究「映像による民衆史・大阪泉南地域におけるアスベスト被害と石綿村100年史」を申請、受理されて、3年間研究費補助を受ける。2010年DVD「原告・西村博子さん篇」発表。2011年DVD「原告・岡田陽子さん篇」発表。2012年DVD「命で なんぼなん？ 大阪泉南アスベストを闘う」発表。

(5) 2013年4月「映像記録・日本民衆史学大阪泉南地域におけるアスベスト被害と石綿村百年史総集編篇」スタートする。

2. 研究の目的

(1) 日本の辺境というべき大阪泉南地域に連綿と続いてきたアスベスト紡績産業の歴史の掘り起こしと埋もれたアスベスト被害の実態をあきらかにして映像記録とする。

(2) 「泉南アスベスト国賠訴訟」の全貌を映像記録とする。2010年5月19日大阪地裁判決1陣原告勝訴。国は泉南アスベスト被害について初めて国の責任を明確に認定。国は控訴。2011年8月25日大阪高裁判決1陣原告の逆転敗訴。経済産業の発展のためには多少の犠牲はやむを得ない、よって国の責任はないとする不当判決に原告団・弁護士は怒りをもつ

て最高裁に上告。

2012年3月28日大阪地裁判決2陣原告勝訴。再び国の責任を認定。早期解決を訴える原告団・弁護士・支援者たちの願いは届かず、国はまたしても控訴。

2013年12月25日大阪高裁判決2陣原告勝訴。再々度、国の責任を厳しく断罪するも、国は最高裁へ上告。

こうして1陣も2陣も最高裁にまでその判断は持ち越されることとなった。この間にも原告たちの病状は悪化、次々と命を落としてゆく。

2014年5月15日～6月4日の21日間厚労省前で原告団は厚労大臣に面会を求めて訴え続けるが、拒絶される。

2014年10月9日最高裁判決2陣原告勝訴、1陣高裁差し戻し。国はようやく「重く受けとめる」と表明。

石綿工場の労働者ではない近隣暴露、家族暴露は地裁から一貫して敗訴という問題を残している。

(3) 2015年1月18日、頑なに面会を拒んでいた厚労大臣が泉南の地に謝罪に訪れた。謝罪訪問先に予定されていた原告・松本幸子さんはその日を待たずに逝去、大臣は故人となった松本幸子さんの枕元に虚しく謝罪の言葉を残して立ち去った。最初に名乗りを上げた被害者本人原告のうち、生き残って闘い続けているのは石川チウ子さんただ一人となった。こうした現代の棄民ともいうべき泉南アスベスト被害者の貴重な証言も裁判の過程とともにできうる限り映像として記録に刻みこみたい。

3. 研究の方法

(1) 泉南地域のアスベスト被害の全貌と国家賠償訴訟のプロセスを取材、HDVカメラに撮影し、ドキュメンタリー映画を製作する。撮影期間：2013年4月～2015年5月

撮影したHDVテープは約250時間。(2007年～2012年に撮影したHDVテープは約300時間)

総集篇編集期間：2015年6月～2016年1月
整音仕上げ期間：2016年1月～2月5日
完成尺2時間14分。Blu-ray仕上げ。

(2) 撮影場所：泉南市、阪南市、岸和田市、堺市、大阪市、東京等。

(3) 登場人物

原告団

原告・西村博子さん(2012年逝去)

原告・岡田春美さん(2012年逝去)

原告・岡田陽子さん 家族暴露、敗訴。

原告・石川チウ子さん 石綿肺管理区分4。

遺族原告・南和子さん 近隣暴露の石綿肺

で父をなくす。敗訴。

遺族原告・佐藤美代子 夫が石綿肺で死亡。

就労期間で線引きされる。
原告・江城正一さん (2016年逝去)
原告・藪内昌一さん (2013年逝去)
原告・赤松四郎さん (2012年逝去)
原告・赤松夕工さん 石綿肺管理区分2
原告・中谷親幸さん (2014年死去)
原告・箕田努さん
遺族原告・武村絹代さん
遺族原告・満田ヨリ子さん
遺族原告・山田哲也さん
遺族原告原告・湖山幸子さん
遺族原告原告・原まゆみさん 他 48名

弁護団
芝原明夫弁護士・弁護団団長
村松昭夫弁護士・弁護団副団長
伊藤明子弁護士
谷智恵子弁護士
鎌田幸夫弁護士
奥村昌裕弁護士
小林邦子弁護士
八木倫夫弁護士
岡千尋弁護士
谷真介弁護士 他 16名

。支援者
市民の会代表・柚岡一禎さん
勝たせる会事務局長・伊藤泰司さん
全国安全センター・澤田慎一郎さん
勝たせる会・中村千恵子 他 12名

医者・学者
みずしま内科クリニック院長・水嶋潔医師
立命館大学教授森裕介 他 5名
合計80余名。

(4)制作スタッフ
監督・撮影：原一男
構成脚本：小林佐智子(映画プロデューサー、大阪芸術大学・芸術学部映像学科・客員教授)
撮影：神東良之(カメラマン)
撮影：長岡野亜(ドキュメンタリー作家)
撮影：満若勇咲(カメラマン)
撮影：森谷真澄(ドキュメンタリー作家)
編集：糸賀祐介(編集者)
編集アドバイザー：秦岳志(編集者)
協力：岡崎まゆみ(ドキュメンタリー作家)
協力：友長勇介(写真家)
協力：大阪芸術大学映像学科副手、学生、OB
整音スタジオ：テレコープ

4. 研究成果

(1)映像記録(2013年3月~12月)
2013年3月~5月原告団インタビュー撮影。
2013年8月6日原告藪内昌一さん葬儀(真如苑)撮影。喪主・妹2人インタビュー撮影。
偲ぶ会撮影。
2013年8月20日原告岡田陽子さん・息子英祐君、母(原告岡田春美)の墓参り。自宅インタビュー撮影。

2013年12月22、23日2陣高裁判決前東京行動・ポレポレ東中野『命て なんぼなん?』上映&トーク、柚岡一禎さん、鎌田幸夫弁護士インタビュー、公開撮影。
2013年12月25日2陣高裁判決、大阪・東京二元撮影。大阪撮影班・高裁前、勝利判決旗出し、勝訴報告。東京撮影班・厚労省前、待機する伊藤明子弁護士に勝訴の知らせ、支援者の歓声、弁護団、早期解決の交渉開始。
2013年12月28日第22回原告団総会、2陣高裁勝訴報告集会の撮影。

(2)映像記録(2014年1月~12月)
2014年1月6日2陣高勝訴東京行動に新幹線で向かう柚岡一禎一行に密着。官邸建白書直訴行動の顛末を3カメラで撮影。
2014年1月22日泉南樽井・松島石綿工場(廃業)見学、同行取材撮影。
2014年2月22、23日、3月2日、シネヌーヴォX『命て なんぼなん?』上映&トーク、伊藤泰司さん、伊藤明子弁護士、遺族原告山田哲也さん、インタビュー、公開撮影。
2014年5月15日~6月4日迄、連日厚労省前で要請行動。「田村厚労大臣、会うてんか」行動。厚労省役人VS泉南原告団による21日間の攻防を取材撮影。
2014年9月4日最高裁公判、最高裁行動撮影。
2014年10月9日最高裁判決日。東京・大阪二元中継撮影。東京撮影班・最高裁前勝利判決旗出し、厚労省正式要請、紛糾。大阪撮影班・泉南市役所勝訴判決報告記者会見。
近隣暴露や家族暴露は認められず、労働期間によって線引きされた遺族もあった。
2014年10月27日塩崎厚労大臣が原告27人と面会。記者団と共に撮影。
2014年12月26日、1陣高裁差し戻し公判。報告集会、撮影。

(3)映像記録(2015年1月~4月)
2015年1月18日塩崎厚労大臣の泉南謝罪訪問。原告松本幸子の遺体枕元で遺族に謝罪。単独取材撮影。その後、大臣は泉南原告団と面会し謝罪するが、おとなしい原告の対応を見て、次第に余裕の笑みを浮かべる。慥然とする弁護団。
2015年3月、原告・遺族原告インタビュー。
2015年4月19日泉南石綿の碑建立式、撮影。

(4)2016年2月6日『ニッポン国泉南アスベスト村 劇場版 命て なんぼなん?』(134分)を完成。Blu-ray仕上げ。

(5)2016年2月9日完成披露試写会を大阪芸術大学映画館で開催。泉南原告団、支援者、協力者参加。質疑応答。

(6)2016年2月13、27日東京・シネマヴェーラ渋谷「原一男監督特集」で特別上映。
2月13日上映&トーク：原一男監督
2月27日上映&講演：佐伯一麦

(7) 現在、一部再編集集中。
2016 年 8 月完成予定。予定尺 155 分。
2016 年 10 月大阪で自主上映開始。
2016 年秋、国際映画祭に出品予定あり。
2016 年秋、関連書籍『ニッポン国泉南アスベ
スト村 製作ノート』出版予定。
2017 年 1 月東京で劇場公開予定。

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

原 一男 (HARA, Kazuo)
大阪芸術大学・芸術学部・教授
研究者番号 : 40388393